

# 新年を迎えるにあたって



会長 飯塚弘志

新年明けましておめでとうございます。

先生方には、ご家族お揃いで新しい年を迎えられましたことと、心からお慶び申し上げます。

昨年は長引く経済不況と相俟って、医療界も例外と言えず、医業経営が危殆に瀕していることを身をもって実感したところです。

新しい千年紀を迎えたことで、何となく、身の引き締まる思いと同時に、何かを期待できるのではないかと、心の浮き立つ感じもいたします。しかし冷静に考えてみますと、医療の質の向上と効率化という名目のもとに、医療への締め付けが益々強くなることは想像だにかたくありません。今年度はそれらへ勇気を持って立ち向かっていく新しい出発点とも言えるでしょう。

新しいミレニアムを迎え、まず第1にY2K問題があります。情報政策部長を中心に、行政、医業業界、医療機器業界等々とも打ち合わせを十分にに行い、その対策を確立したところです。杞憂に終わることを期待しております。

また、今年1月1日から全国医師会一斉に、カルテ等診療情報開示が施行されます。北海道医師会といたしましても、情報の公開と共有化という時代の流れもみながら積極的に推進していきたいと考えております。それらの具体的方法論については、すでに先生方にお示したところであります。私としても、これを機会に道民に対して開かれた医師会というイメージを抱いていただけるよう努力をしまいたいと思っております。

昨年の10月より救急医療情報システムが再スタートしております。それを生かすも殺すも先生方次第です。十分に活用していただくようお願い申し上げます。ただ救急医療情報システムそのもの

の限界がありますので、十分活用していただけるようその他の種々の利用しうるソフトを工夫していく必要性もあります。私共も行政共々努力をしていく所存です。

いよいよ本年4月から介護保険法が施行されます。すでに準備段階として昨年10月から要介護認定作業が始まっております。介護度の判定にいくつかの食い違いあるようですが、先生方のご努力に深く敬意を表します。実施にあたって、適正な介護認定、ケアプランの策定、適切なケアサービスの提供など、これからが問題です。いずれのステップにおいても、医師の果たすべき役割は極めて重要であります。医師がそれぞれの役割を、中心的存在として、果たしていくことが求められます。おおいに期待しているところです。

昨年「道民健康教育センターの機能に関する検討委員会」を発足させました。過日その報告書を委員会からいただきました。ソフト面に視点を置いた、新しい健康情報センターの構築を描いたものです。3月の定時代議員会に提案し、承認をいただけたら、4月から新しい健康情報センターの構築の方向へ取り組んでいきたいと考えております。

さらに「少子化対策検討委員会」を設置し、近々その報告書が提出される予定です。国においても少子化対策基本方針を策定し、女性の仕事と育児への対策を行おうとしております。この問題はなかなか決め手に乏しく、総合的な対策が必要と思われます。北海道医師会としても、医師会として何をなすべきか、何ができるか関与していく必要があります。報告書の内容を検討しながら、医師会としてできること、しなければならないこ

とを実行していきたいと考えております。息の長い仕事となりますが、倦まず、絶ゆまずやっぴかなければなりません。高齢者問題は極めて重要な課題であります。少子化問題も重要な課題であります。

情報化社会と言われて久しくなります。もはや産業の情報化というよりも情報の産業化の時代となっております。そのような時に、医療界の情報化は極めて遅れております。情報化の流れは益々急スピードで進んでいくものと思われれます。「北海道医師会総合情報システムの構築にかかわる検討委員会」を設置し、現在、専門家のワーキンググループにより精力的な作業を進めている段階であります。パソコンは情報伝達のメディアとして極めて有用な道具です。パソコンの活用は勿論ですが、情報システムとはそれだけではありません。ハードを利用することは当然ですが、最も肝要なのはソフトウェアとヒューマンウェアであります。これもまた、エンドレスマラソンで息長く続けていく必要があります。

「生命と倫理に関する検討委員会」も立ち上げました。当面の最大の課題としてカルテ等診療記録の開示の問題に取り組みました。日本医師会は医師の倫理規範として、自主的に情報開示に取り組んできました。この度の第4次医療法改正からは、その法制化が見送られました。見送られたということは、将来法制化しないということではありません。法制化への道へ進むか否かは、この度の我々の実施状況如何によるものです。

21世紀には遺伝子治療と臓器移植が普及していくものと思われれます。医師会としても当然これらに関与していく必要があります。また、これと背中合わせの倫理問題が当然浮上してきます。さらにはもっと幅広く、職業人の医師としての倫理が強く社会から求められてきます。

私共は自浄作用を強く発揮できるような仕組みを作り上げていかなければなりません。なかなか具体的妙案があるわけではありません。それは自ら自らを律し、崇めていかなければならないか

らです。先生方のお知恵も拝借したいと思っております。

以上、昨年北海道医師会が取り組んできた問題と、これからも取り組んでいく問題について、簡単に申し述べました。

目を国レベルに転じてみますと、診療報酬体系の抜本的改革、薬価基準制度改革、医療保険とりわけ高齢者医療保険制度の抜本的改革、医療提供体制の改革と4つの大きな問題があります。

いずれの問題も抜本的に改革を行わなければ将来に禍根を残すこととなります。場当たりの花札行政的改革ではなく、将来を見据えた囲碁行政的改革でなければなりません。これらの問題に対しても、我々は一致協力して日本医師会をサポートする義務があります。歯を食いしばって闘う日本医師会の態度は、私の胸を打つものがあります。どうして加担せずにはいられましょうか。

昨年12月の全理事会において、次期日医会長に坪井現日医会長を支持することを決定いたしました。早い時期から態度を鮮明にすることによって、坪井執行部を支援するという意味から行ったものです。

対案なき批判は猿でもできます。脱皮していくことによって組織は発展します。変化なき組織は衰退します。変わらずに生き残っていくには変わらなければなりません。

「最上の幸福は、一年の終わりに年頭の自己よりも、より良くなったと感ずることである。」とトルストイは言っております。そのように思えたら誠に幸せです。皆様共々そう感じることができるよう努力してまいりたいと思っております。

新年を迎えるにあたり、所信の一端を申し述べさせていただきます。

今後共、会員諸先生のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

最後になりましたが、先生方の今後益々のご健勝とご多幸をお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。

## 年頭所感



日本医師会会長 坪井 栄孝

平成12年の初春を迎えるに当たりまして、会員の皆様にご心からお慶びを申し上げます。

本年は20世紀最後となる西暦2000年、21世紀はまさに目前に迫っております。そこで本年は、20世紀を総括しつつ、21世紀の展望を切り開く年にしたいと考えております。

19世紀に大きく進歩した細菌学は、やがてウィルス学を発展させ、そして今日では、分子生物学のレベルで人間と疾患の関わりを分析できるようになりました。このように20世紀は、医学・医療をはじめとする自然科学が急速な進歩を遂げ、人類の幸福に大きく寄与しております。さらに、1990年から始まったヒトゲノム計画は当初の予想を大幅に繰り上げ、2003年には遺伝子情報の大部分の解読が終了し、遺伝子診断は飛躍的に進展すると考えられます。そして、「21世紀は遺伝子治療の時代」と言われるように、これまで難治とされてきた様々な疾患の治療にも光明がみえてくるに違いありません。

しかし一方で、遺伝子診断、生殖医療等においては新たな生命倫理に関わる諸問題も発生しております。昨年の世界医師会総会におきましても、主要な議題の一つとなりました。われわれは、進歩とそれに伴う倫理の問題を積極的に取り上げていかなければなりません。

さて、国内の問題に目を転じますと、バブル経済の崩壊後、低迷を続けているわが国の経済は、一部には「底を打った」という評価もありますが、失業率は依然として高く、先行きの不透明感

は解消されておられません。

こうした中で、いよいよ本年4月1日から実施となる介護保険制度が、あろうことか「政争の具」に用いられ、国民を混乱に陥れております。このように、医療も介護も国民不在の財政主導によって政策が進められていることは、まさしく国民にとって不幸であるといわざるをえません。

われわれは、医療を含めた社会保障への投資は、公共事業への投資以上に生産波及効果・雇用効果を生み出すことを客観的なデータに基づいて試算しております。「社会保障は消費ではなく投資」であることを医療政策立案のうえで今後とも強調していきたいと考えております。

国民の健康や生命に直接関わる医療においては、真に国民の立場からの対応が求められております。医療情報の開示もより良い医師と患者関係を作り上げるといった観点から積極的に進めてまいりたいと考えております。

日本医師会が現在推し進めている医療構造改革構想に基づく諸施策の実現が、良質で適正な国民医療の確保に必要な不可欠であると確信し、すべての会員の強い団結の下に、21世紀の社会保障制度の構築に向けて全力を注ぐ所存です。会員の皆様の深いご理解と絶大なるご支援を心からお願い申し上げますとともに、今世紀最後の年となる本年が、来世紀に向けて明るい展望が開ける年となりますことを心から祈念し、新年のご挨拶といたします。

# 謹 賀 新 年

2000年 元 旦

## 北 海 道 医 師 会

会 長	飯 塚 弘 志	常任理事	鈴 木 忠 男	理 事	嶋 崎 日出基
副 会 長	竹 内 實	"	中 川 俊 男	"	奥 野 晃 正
"	佐 野 文 男	"	西 家 皐 仙	監 事	得 地 一 久
"	長 瀬 清	"	並 木 昭 義	"	野 中 富 夫
常任理事	西 信 博	"	小 柳 知 彦	"	井 上 勇
"	豊 田 馨	理 事	島 田 保 久	議 長	官 尾 哲 男
"	柳 内 統	"	三 好 晃 二	副 議 長	增 田 一 雄
"	三 宅 直 樹	"	後 藤 曄	顧 問	吉 田 信
"	赤 倉 昌 巳	"	高 橋 昭 三	参 与	中 野 修
"	今 井 利 賢	"	斎 藤 修 弥	"	青 柳 俊
"	神 山 悠 紀 士	"	小 玉 道 郎		職員一同
"	長 澤 邦 雄	"	森 和 郷		
"	浜 上 裕 一	"	白 川 久 成		

# 謹 賀 新 年

2000年 元 旦

## 北 海 道 医 師 国 民 健 康 保 険 組 合

理 事 長	吉 田 信	理 事	奈 良 俊 則	監 事	岩 本 英 男
副 理 事 長	笹 原 克 己	"	樋 口 忠	顧 問	飯 塚 弘 志
常 務 理 事	横 田 一 郎	"	小 玉 道 郎		職員一同
"	赤 倉 昌 巳	"	高 橋 昭 三		
理 事	島 田 保 久	監 事	井 上 勇		